

資料・統計

2006年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2006

新潟県立がんセンター新潟病院

1. 外科

胃	398
胃癌	
Staging laparoscopy	32
切除	
全摘	72
残胃全摘	12
噴門側切除	9
幽門側切除	194
PPG、分節切除	33
臍頭十二指腸切除	1
EMR	0
SLR	16
部分切除	0
腹腔鏡下幽門側胃切除	0
非切除	
単開腹	0
バイパス	1
その他	0
再発	
肝転移切除	3
リンパ節郭清	3
局所切除	0
卵摘	1
人工肛門	1
腸切除	1
バイパス	1
イレウス	
腸切除	1
バイパス	2
癒着剥離	4
人工肛門造設	0
胃瘻・腸瘻	0
非上皮性腫瘍	
GIST	5
悪性リンパ腫	0
その他	0
潰瘍	1
その他	5

食道

43

良性腫瘍	0
非上皮性腫瘍	0
食道癌	43
右開胸	37
左開胸	0
開腹	6
遊離空腸移植	0
食道抜去	0
肝胆膵	148
肝腫瘍	
肝細胞癌	切除 12
	非切除 1
肝内胆管癌	切除 1
	非切除 2
転移性肝癌	切除 13
	ラジオ波・動注・ノバリス 3
肝良性	
肝良性腫瘍	4
胆道腫瘍	
十二指腸乳頭部癌	切除 5
胆嚢癌	切除 3
	非切除 1
胆管癌	切除 8
	非切除 1
胆道良性	
胆嚢ポリープ	2
胆石症	7
総胆管結石症	3
急性胆嚢炎	1
膵臓腫瘍	
膵臓癌	切除 20
	バイパス 9
IPMN	3
MCN	1
SPT	2
膵良性	
慢性膵炎	2

その他腫瘍		
十二指腸癌	2	
後腹膜腫瘍	3	
小腸癌	3	
小腸GIST	1	
NHL	5	
癌再発	12	
その他良性		
イレウス	2	
ヘルニア	2	
腹膜炎	2	
その他	12	
<b>結腸、直腸</b>	<b>257</b>	
原発	201	
結腸悪性	131	
右半結腸切除術	53	
S状結腸切除術	32	
右結腸切除術	12	
左半結腸切除術	10	
横行結腸切除術	7	
結腸部分切除術	7	
下行結腸切除術	3	
回盲部切除術	2	
上行結腸切除術	1	
虫垂切除術	1	
大腸亜全摘術	0	
非切除術	3	
結腸良性	0	
直腸悪性	70	
低位前方切除術	23	
前方切除術	19	
超低位前方切除術	13	
直腸切断術	9	
経肛門的切除術	3	
ハルトマン手術	1	
骨盤内臓全摘術	0	
非切除術	2	
直腸良性	0	
再発	19	
肝切除術	11	
大動脈周囲リンパ節郭清術	2	
経肛門的切除術	2	
骨盤内臓全摘術	1	
超低位前方切除術	1	
直腸切断術	1	
試験開腹	1	
肝転移	19 (上記原発再発症例に含まれる)	
異時	11 (上記再発症例に含まれる)	
同時	8 (上記原発症例に含まれる)	

その他の手術	37 (内緊急手術 6)
他科癌・他癌	8
人工肛門造設術	3
回腸部分切除術	2
低位前方切除術	1
超低位前方切除術	1
腫瘍摘出術	1
人工肛門閉鎖術	18
大腸亜全摘術	2
腹壁癒痕ヘルニア	4
腸閉塞手術	1
人工肛門造設術	1
骨盤内膿瘍ドレナージ	1
リンパ管結紮術	1
止血術	1

<b>乳腺</b>	<b>358</b>
外来手術	
乳腺	40

入院手術		
甲状腺,副甲状腺		1
乳腺		
良性		6
乳輪下膿瘍		0
乳癌		316
Auchincloss	49	
Mastectomy + SLNB	31	
Simple mastectomy	13	
Lumpectomy + Ax	71	
Lumpectomy + SLNB	120	223
Lumpectomy	32	

その他	
局所再発 (リンパ節、創)	7
温存乳房切除	
断端陽性	6
乳房内再発	22
後出血	0
その他	1

2006年の外科手術件数は入院1221件、外来40件で2005年と比べ入院が44件増加し過去最高手術数を記録した。各臓器別手術件数は乳腺358件、食道43件、胃398件、肝胆膵148件、直腸・結腸257件、その他7件であった。乳癌は316件で昨年より43件減少したが、70%が乳房温存手術と最も多かった。食道癌は下部食道癌の手術が非開胸による開腹術が6件と増加した。胃癌は337件で過去最高を記録し、48件大幅に増加した。結腸・直腸手術も201件

で19件増加した。これは原発性の結腸腫瘍の増加のためであった。肝胆膵では膵臓癌が増加しているが、胆道癌は例年とほとんど変化は見られていない。外科における手術患者は年々増え続けている。これは特に高齢者の手術件数の増加によるものと考えられる。2006年4月に野村先生が赴任しスタッフもますます充足してきている。今年は病棟改築され、研修医も増えさらなる手術件数の増加が予想される。(文責 土屋嘉昭)

2.呼吸器外科

1 気管(支)疾患	2
気管切開	2
2 肺疾患 231	
2-1 良性肺疾患	10
炎症性肺疾患	8(4)
良性肺腫瘍	2
2-2 悪性腫瘍	221
2-2-1 原発性肺癌	202
全摘除	3
肺葉切除	118(18)
区域切除	53(5)
部分切除	20(1)
気管支切除	0
試験開胸	6
審査開胸	0
生検	2(2)
2-2-2 転移性肺腫瘍	19
結腸直腸癌肺転移	12(8)
骨軟部腫瘍肺転移	2(1)
腎癌転移	2(1)
他	3(2)
3 縦隔疾患	18
3-1 縦隔腫瘍	13
胸腺腫	4(1)
奇形腫	0
胚細胞性腫瘍	2(1)
神経性腫瘍	0
胸腺癌	2
胸腺カルシノイド	1
囊腫	2(2)
他	2
3-2 縦隔鏡検査	5
4 胸膜疾患	6
気胸	3(2)
膿胸	1

胸膜生検	1(1)
胸膜中皮腫	1
5 胸壁疾患	3

( ) : 胸腔鏡手術

2006年の手術数は260件で、昨年とほぼ同数であった。生検を除いた原発性肺癌手術例は200例で、3年続けて200を越えた。肺癌に対する胸腔鏡併用手術(VATS)は増加しており、今年はVATS併用下肺葉切除が18例、区域切除が5例に行われた。従来通り、2cm以下の肺癌には根治を目指した区域切除などの縮小手術を行っている。転移性肺腫瘍や良性縦隔腫瘍でも、胸腔鏡手術を積極的に行っている。胸膜中皮腫の切除と生検が各1例あり、今後増加の可能性はある。(文責 大和 靖)

3.整形外科

腫瘍性疾患	
良性軟部腫瘍	
切除術	101
切除術+皮弁	2
良性骨腫瘍	
生検	4
切除術	6
切除または搔爬+骨移植	15
良性腫瘍小計	128
悪性軟部腫瘍	
広範切除	10
広範切除+筋皮弁、遊離組織	6
切除・生検	19
悪性軟部腫瘍計	35
悪性骨腫瘍	
広範切除	3
広範切除+人工関節等の再建	3
切除・生検	9
悪性骨腫瘍計	15
脊髄腫瘍	3
転移性腫瘍・脊椎	
椎弓切除+後方固定	3
腫瘍切除+前方固定	2
椎弓切除	3

脊椎生検	2
転移性腫瘍	
髄内釘固定	4
近位部置換	2
切除	3
<hr/>	
転移性腫瘍計	19
非腫瘍性疾患 脊椎疾患	
ラブ法	3
頸椎後方拡大術	2
<hr/>	
脊椎疾患計	5
股関節疾患	
人工関節置換術	7
人工関節再置換術	2
人工骨頭置換術	2
<hr/>	
股関節疾患計	11
膝関節疾患	
人工関節置換術 全置換	30
人工関節置換術 単顆置換	1
関節鏡視下滑膜切除	6
関節鏡視下半月版切除	7
関節鏡検査	4
骨長調整術	2
遊離体摘出	1
高位脛骨骨切術	2
<hr/>	
膝関節疾患計	53
肩関節疾患	
腱板縫合術	3
関節鏡視下滑膜切除	1
人工肩関節置換術	1
<hr/>	
肩関節疾患計	5
肘・手関節疾患	
腱鞘切開	27
手根管開放術	8
滑膜切除	3
人工肘関節置換術	2
関節固定・形成術	5
神経剥離	3
<hr/>	
肘・手関節疾患計	48

足・足関節疾患	
滑膜切除	2
関節固定術	1
<hr/>	
足・足関節疾患計	3
その他	
骨接合術	17
偽関節手術	1
創外固定	2
抜釘	9
デブリードマン	2
異物除去	2
<hr/>	
その他計	33

総合計 358

合計に対する腫瘍性疾患の比率は55.9%で昨年よりやや増加した。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍64.0%、悪性腫瘍17.5%、転移性腫瘍9.5%、脊髄腫瘍1.5%であった。人工関節手術数は昨年より増加した。(文責 畠野宏史)

#### 4 脳神経外科

(1) 脳腫瘍摘出術	33
シャント	1
その他	15
(2) 脳血管障害	
血腫除去	1
減圧術	0
その他	0
(3) 頭部外傷	
血腫除去術	8
(4) その他	5
<hr/>	
計	63

前年度とほぼ同じ傾向であった。(文責 吉田誠一)

## 5 産婦人科手術統計

腹式子宮全摘出術 (+ 附属器摘出術など)	78	SLO (Second Look Operation) (Secondary Reductive Surgeryを含む)	6	
子宮筋腫	54	卵巣癌	6	
子宮腺筋症	12	子宮頸部円錐切除術	82	
子宮頸部異形成	5	子宮頸部異形成	27	
子宮頸癌	0期	子宮頸癌	0期	38
子宮内膜異型増殖症	1		I a1期	8
			I a2期	1
膣式子宮全摘出術	1		I b1期	3
子宮頸部異形成	1	子宮頸癌疑い		5
準広汎子宮全摘出術	8	LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)	38	
子宮頸癌	0期	子宮頸部異形成	25	
	I a1期	子宮頸癌	0期	13
	I b2期			
子宮内膜増殖症	1	その他の悪性腫瘍手術	40	
広汎子宮全摘出術	21	外陰癌手術	2	
子宮頸癌	I a2期	外陰良性腫瘍手術	6	
	I b1期	尿道口形成術	1	
	I b2期	バルトリン腺造袋術	1	
	II b期	膣良性腫瘍手術	2	
子宮体癌	I b期	後腹膜腫瘍手術	2	
		再発癌手術	16	
子宮体癌手術	63	試験開腹術	6	
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+ 骨盤リンパ節郭清) (子宮肉腫を含む)		ドレナージ	4	
子宮体癌	I a期	4	附属器摘出術	24
	I b期	39	(附属器腫瘍摘出術を含む)	
	I c期	9	子宮筋腫核出術	25
	II b期	1		
	III a期	5	子宮脱手術	7
	III c期	2	膣式子宮全摘出術+膣壁形成術	2
	IV b期	3	Le Fort手術	3
悪性卵巣腫瘍手術	34	Strumdorf手術	1	
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+ 骨盤リンパ節郭清+大網切除術) (卵管癌を含む)		膣壁形成術	1	
卵巣癌	I a期	4	腹腔鏡下手術	58
	I b期	1	良性卵巣腫瘍	55
	I c期	12	乳癌術後 (両側卵巣摘出術)	1
	II b期	1	悪性卵巣腫瘍	1
	II c期	6	子宮筋腫	1
	III a期	2	経頸管的切除 (TCR)	22
	III b期	1	子宮筋腫	7
	III c期	6	子宮内膜ポリープ	14
	IV 期	1	子宮内膜増殖症	1

帝王切開術	7
前回帝王切開	3
骨盤位	1
子宮筋腫核出後	3
<hr/>	
子宮内容除去術	5
流産	1
胞状奇胎再搔爬術	2
子宮体癌疑い	2
<hr/>	
計	519

2006年の総手術件数は519件であり、前年の513件とほぼ同数である。

2006年9月をもって、当院における産科診療が幕を閉じた。

最終年にあたる2006年は、帝王切開、流産手術など産科手術が例年より減少した。がんセンターにおける最後の分娩は、帝王切開であった。

子宮頸癌では、初期癌で診断されることがますます多くなり、広汎子宮全摘出術が減少し、子宮頸部円錐切除術やLEEPの症例数が増加した。

子宮体癌発生数の増加が全国的にも認められるが、広汎子宮全摘出術を含めた子宮体癌手術件数が昨年は46件であったのに対し、今年は64件に増加した。

卵巣癌など他の癌種に関しては、ほぼ例年通りであった。  
(文責 笹川 基)

## 6. 泌尿器科

### 悪性腫瘍

1. 後腹膜・副腎	(3)
転移性副腎腫瘍	3
2. 腎細胞癌	(40)
根治的腎摘除術	25
腎癌腎部分切除 (鏡視補助)	13
腎癌転移切除	2
3. 腎盂尿管癌	(28)
腎尿管全摘除	26
尿管部分切除	2
4. 膀胱癌	(259)
膀胱全摘+回腸導管	16
膀胱全摘+皮膚ろう	2
膀胱全摘+回腸膀胱	1
膀胱部分切除	3
試験開腹+回腸導管	1
TURBT	236

5. 前立腺癌	(367)
前立腺生検	317
前立腺全摘除	18
TUR-Cap	1
両側精巣摘除	31
6. 精巣腫瘍	(12)
高位精巣摘除	11
後腹膜リンパ節郭清	1
7. 陰茎癌	(5)
陰茎全摘	1
陰茎部分切除 (陰茎癌2、膀胱癌浸潤1、黒色腫1)	4
8. そけい部手術 (脂肪肉腫1、リンパ郭清1)	2

小計 (716)

### 良性腫瘍

1. 副腎腫瘍	(3)
開腹副腎腫瘍摘除	2
腹腔鏡補助下副腎腫瘍摘除	1
2. 後腹膜	(3)
後腹膜腫瘍摘除・生検	3
3. TUR-P	16
4. 経尿道的手術 (膀胱鏡1、けい室切除1)	2
5. 良性腫瘍切除 (陰囊1、精巣1、腹壁1)	3

小計 (27)

### 腫瘍以外

1. 腎	(22)
経皮的腎ろう	22
2. 尿管	(52)
尿管カテーテル法 (留置含む)	52
3. 膀胱	(5)
膀胱ろう造設	1
膀胱血腫除去	3
水圧拡張療法	
膀胱碎石術	1
4. 尿道	(3)
内尿道切開	3
5. 陰囊/精巣	(2)
陰囊水腫手術	1
精巣上体摘除	1
6. その他	3 (3)
(フルニエ壊疽1、膀胱膿ろう閉鎖1、術後出血1)	

小計 (87)

総計 830

2006年の手術統計は延べ798名、830件の集計であった。2004年の908件には及ばないものの、昨年より件数は増加してきている(812→830)。個々の検討を行なうと、腎癌手術は2005年に比し、10例ほど減少、前立腺生検自体は22例減少したが、TURBTが50例以上増加していた。良性疾患に対する手術、腫瘍以外の手術はほぼ横ばいであり、増加分は悪性腫瘍への特化分と考えられた。

(文責 若月俊二)

7. 皮膚科手術統計

悪性腫瘍

悪性黒色腫	20
基底細胞癌	49
有棘細胞癌	34
ボーエン病	22
日光角化症	16
外陰パジェット病	2
皮膚付属器腫	8
悪性軟部腫瘍	5
悪性リンパ腫	15
転移性皮膚癌	11
小計	182

良性腫瘍・その他

母斑細胞母斑	123
表皮嚢腫(粉瘤)	120
脂漏性角化症	32
脂肪腫	45
皮膚線維腫・軟線維腫	20
脂腺母斑・青色母斑	16
良性皮膚付属器腫瘍	9
血管腫	16
ケラトアカントーマ	19
石灰化上皮腫	31
化膿性肉芽腫	4
慢性膿皮症	1
神経線維腫	7
その他	70
小計	513

全体の手術件数は695件と、前年よりも80件増加した。10年前と比較すると約2倍の件数となっている。皮膚癌症例が当院へ一極集中するようになったことも1つの要因ではあるが、皮膚科勤務医

の不足により、良性腫瘍の小手術であっても遠方から当院へ紹介されるようになっている。

(文責 竹之内辰也)

8. 眼科

超音波白内障手術+眼内レンズ挿入術	130
超音波白内障手術	3
囊外白内障手術+眼内レンズ挿入術	13
囊外白内障手術	1
硝子体切除術+眼内レンズ挿入術	1
線維柱帯切除術	10
霰粒腫切除術	2
翼状片切除術	1
虹彩切除術	1
眼球内容除去術	1
眼瞼挙筋短縮術	1
計	164

件数は、昨年度の172件と比較して8件減少した。

白内障手術または眼内レンズ挿入術は、昨年度は159件であったのに対し、今年度は148件と11件減少した。

一方、緑内障手術は、昨年度の6件から10件と1.67倍に増加した。(文責 大矢佳美)

9. 耳鼻咽喉科

悪性腫瘍

1. 舌・口腔	8	
部分切除		7
切除+再建		1
2. 中・下咽頭	2	
切除+再建		2
3. 喉頭	6	
レーザー手術		3
全摘		3
4. 甲状腺	57	
葉切除		41
亜全摘		5
全摘		11
5. 頸部	4	
転移性リンパ節切除		3
頸部郭静		1
6. 唾液腺	1	
耳下腺腫瘍切除		1
小計		78

## 良性腫瘍

1. 口腔・口唇腫瘍切除	2
2. 喉頭	2
声帯ポリープ・結節切除	2
3. 甲状腺	6
葉切除	6
4. 唾液腺	5
耳下腺部分切除	5
5. 副甲状腺腫瘍切除	3
6. その他	3
<hr/>	
小計	21

## その他

1. 生検	
口腔・咽頭	7
喉頭	47
甲状腺	2
頸部リンパ節	27
2. 気管切開	12
3. 食道ブジー	1
4. その他	6
<hr/>	
小計	102

例年のように甲状腺手術、リンパ節生検症例が多い。これらの症例は院内他科からの要請がほとんどで、当科の人員不足から手術待機時間が延長し迷惑をかけている。今後は抜本的な改革により能率的な運営が必要と思われる。また頭頸部癌再建手術（いわゆる長時間手術）の工夫による手術時間短縮もこれからの当科の課題である。

（文責 佐藤雄一郎）